

# 青少年の健全育成の推進

## 1. 青少年の体験活動の推進

(前年度予算額 214,979千円)  
27年度概算要求額 478,671千円

### [要求要旨]

青少年が自立への意欲を高め、心と体の相伴った成長を促進するため、全ての青少年の生活に体験活動を根付かせ、社会との関係の中で自己実現を図れるよう、自然体験や社会体験など多様な体験活動の機会を充実するための取組を推進する。

### [要求内容]

#### (1) 日本と世界の青少年による国際交流推進事業【新規】 300,000千円

来年7月に、ボーイスカウトの世界大会である第23回世界スカウトジャンボリーが日本で開催されることに伴い、日本の青少年が世界各国の青少年と共に、自然体験・スポーツ体験・文化体験等の様々な体験活動による国際交流事業を実施することにより、国際社会で活躍できる能力・感覚を醸成する。

【民間団体へ補助】

( 54,253千円)

#### (2) 体験活動推進プロジェクト等の充実 54,688千円

青少年の体験活動を推進するため、全国的な普及啓発事業、青少年の体験活動推進に関する調査研究、企業の社会貢献としての体験活動推進に関する企業CSRシンポジウム等を実施し、青少年の体験活動の機会の充実と普及啓発を図る。

【地方公共団体・民間団体等へ委託】

(参考：東日本大震災復興特別会計) ( 324,468千円)

#### ○ 福島県の子供たちを対象とする自然体験・交流活動支援事業 324,468千円

福島県内の子供を対象として、学校や社会教育団体等が実施する自然体験活動や県外の子供たちとの交流活動を支援する。

【福島県へ補助】

## 2. 子供の読書活動の推進

(前年度予算額 46,849千円)  
27年度概算要求額 46,849千円

### [要求要旨]

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、第三次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が平成25年5月17日に閣議決定されたところであり、子供が自主的に読書活動を行うことができるよう、施策の総合的かつ計画的な推進を図る。

### [要求内容]

( 29,828千円)

#### (1) 読書コミュニティ拠点形成支援

29,828千円

学校、図書館、読書ボランティア団体等による読書コミュニティの構築を促進するため、「子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム」を全国各地で開催し、それぞれの取組の紹介や子ども読書活動推進計画をはじめ、子供の読書活動を推進する諸施策（家読、ビブリオバトル<sup>うちどく</sup>）等に関する情報提供等を行う。

【都道府県教育委員等へ委託】

## 3. 青少年を取り巻く有害環境対策の推進

(前年度予算額 38,399千円)  
27年度概算要求額 43,703千円

### [要求要旨]

インターネット上の有害情報等から青少年を守るため、関係府省庁やPTA等と連携しつつ、保護者及び青少年に直接働きかける啓発と教育活動を総合的に推進する。

### [要求内容]

( 6,696千円)

#### (1) 青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業【拡充】

12,397千円

青少年のスマートフォンを所有する割合や、スマートフォンなどを通じてインターネットを利用する割合及び平均的な利用時間が増加しており、ネット依存などへの対策が課題となっていることから、ネット依存傾向の青少年を対象とし、青少年教育施設を活用した自然体験や宿泊体験プログラム等を普及することにより、ネット依存対策を推進する。

【民間団体等へ委託】

# 日本と世界の青少年による国際交流推進事業

(新規)  
27年度概算要求額:300,000千円

## 背景

- 青少年が異なる文化や習慣を持つ人々と意見交換や討論を行うほか、寝食を共にしたり、様々な活動を協力して実施したりするなどの国際交流体験を積むことが必要不可欠(中教審答申(平成25年1月21日))
- グローバル人材育成のための青少年交流等の機会充実、日本文化体験等を通じた青少年の国際交流の推進(グローバル人材育成戦略(平成24年6月4日))
- ボーイスカウトの世界大会である第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)(平成27年)等の日本での開催を契機として、青少年団体、大学、民間団体等との連携を強化し、国内外の青少年の異文化体験や国際交流等の機会の充実を図る(観光立国推進基本計画(平成24年3月30日))

## 概要

### 第23回世界スカウトジャンボリー

- ・平成27年7月に、ボーイスカウトの世界大会である第23回世界スカウトジャンボリーが山口県きらら浜で開催
- ・162の国と地域から約30,000人(海外からは24,000人)もの人々が参加予定
- ・海外の青少年と日本の青少年が交流する様々なプログラム(文化・科学技術・平和プログラムなどを体験)を実施
- ・異なる文化や習慣を持つ人々との交流を通して、国際的な視野を醸成



(ボーイスカウトによる交流)

(地域の青少年との交流)

### 山口ジャンボリーフェスタ

- ・世界スカウトジャンボリーをボーイスカウトのみの活動にとどめず、世界各国から青少年が集うことを機会に日本の青少年を対象として交流イベントを開催(クールジャパン、地産地消などをテーマ)
- ・自国の伝統と文化を尊重するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する人材の育成
- ・日本の青少年の国際的な視野を醸成
- ・日本に関する理解の増進・親日層の形成



連携・協力

日本国内で国際交流

世界各国の青少年が日本へ



(習字で日本文化体験)



(世界の青少年を歓迎)

## 効果

日本と世界の青少年が自然体験・スポーツ体験・文化体験等を交えた国際交流を通し、**日本に関する理解の増進**とともに、**国際的な視野を醸成し国際社会で活躍できるグローバル人材の育成**を図る。

# 体験活動推進プロジェクト等の充実

(前年度予算額 : 54,253千円)

27年度概算要求額 : 54,688千円

## 背景

### ○教育振興基本計画(H25.6.14閣議決定)

◇「社会を生き抜く力の養成」(基本方針)

◇様々な体験活動及び読書活動の推進(基本施策11現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進の主な取組)

### ○子ども・若者ビジョン(H22.7.23 子ども・若者育成支援推進本部決定)

◇子ども・若者が生き生きと、幸せに生きていく力を身につけるための取組

(重点課題)社会参加・体験活動等の能動的な活動の充実

### ○今後の青少年の体験活動の推進について(答申)(H25.1.21 中央教育審議会)

◇体験活動は人づくりの「原点」という認識のもと、社会総ぐるみで体験活動の機会を意図的・計画的に創出していく必要がある。

◇学校外での体験活動を充実させるためには、国や地方公共団体のほか、地域・学校・家庭・民間団体・民間企業等が連携し、情報提供や体験の機会提供をする必要がある。

◇民間企業が提供する体験活動は、青少年に多様な体験活動を提供する上で、有意義であることから、今後更なる広がりを期待したい。

◇日本においても、体験活動を積極的に行い様々な力を身につけた青少年が社会で評価されるよう、日本の実情に応じた評価・顕彰制度の創設に向けて検討する必要がある。

### ○学校安全の推進に関する計画(H24.4.27 閣議決定)

◇国は、各地域の特性に応じた体験的な防災教育を推進するため、学校等を避難所と想定した生活体験等の防災教育プログラムを地域住民や保護者の協力を得て実践する「防災キャンプ推進事業」の実施と成果の普及に努める。

## 施策

### (1) 体験活動推進プロジェクト

#### ①全国的な普及啓発の実施

家庭や企業などへ体験活動の理解を求めていくためのフォーラムを開催するとともに、関係団体間の連携を促進する。

#### ②青少年の体験活動の推進に関する調査研究

青少年を対象とした生活体験・自然体験活動等に関する実態調査及び青少年の体験活動等の評価・顕彰制度に関する調査研究を実施する。

#### ③企業CSRシンポジウム～企業の社会貢献活動を通じた青少年の体験活動の推進～

企業が社会貢献活動の一環として行っている青少年を対象とした環境保全活動や自然体験活動などの実践事例等を全国に普及するとともに、優れた取組を行っている企業を表彰する。

### (2) 子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業

地域を基礎として、家庭、学校、青少年団体、NPO等を「ネットワーク化」し、相互の情報交換や情報共有、事業の共同実施等を円滑にするための「地域プラットフォーム」を設置し、地域の自然環境や教育資源を活用した事業、都市と農山漁村の教育交流、学校・施設を避難所と想定した防災キャンプなどを実施することとおして、地域での持続可能な体験活動推進のしくみをつくる。

青少年の多様な体験活動を一層推進



# 福島県の子供たちを対象とする自然体験・交流活動支援事業

(前年度予算額 :324,468千円)  
 27年度概算要求額 :324,468千円  
 (うち東日本大震災復興特別会計 :324,468千円)

## 趣旨

福島県内の子供を対象として、学校や社会教育団体等が実施する自然体験活動や県外の子供たちとの交流活動を支援する。

## 事業内容

- (1)対象者 福島県内の幼児・児童生徒(小中学生)
- (2)実施主体 福島県(教育委員会)
- (3)対象事業 福島県内の学校または社会教育団体等が実施する以下の事業
  - 自然体験活動(キャンプ、ハイキング、自然観察、農林漁業体験等)
  - 福島県内と福島県外の幼児・児童生徒の交流活動
- (4)補助対象経費 宿泊費、交通費、活動費

### 子ども・被災者生活支援法

#### ◆第8条

国は、支援対象地域で生活する被災者を支援するため、(中略)  
**自然体験活動等を通じた心身の健康の保持に関する施策**(中略)  
 その他の必要な施策を講ずるものとする。

東京電力原子力事故により被災した子どもをはじめとする住民等の生活を守り支えるための被災者の生活支援等に関する施策の推進に関する法律  
 (平成24年6月27日法律第48号)

### 子ども・被災者生活支援法基本方針

#### (5)自然体験活動等を通じた心身の健康の保持

(主な具体的取組)  
 ・福島県に設けた基金を活用した「ふくしまっ子体験活動応援事業」により、福島県内での自然体験活動を実施。**今後、学校等が実施する自然体験活動・交流活動事業について、福島県内のほか新たに福島県外についても支援を検討。**

(平成25年10月11日)  
 被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針

### 健康・生活支援施策パッケージ

#### II 子供に対する支援の強化

- (主な課題(抜粋))
- ①運動不足や、安心して外で遊べないことによる肥満増加に対応。
  - ③心身のケアが必要となっている子どもを支える。

(主要な対応する施策)  
 ・(中略)「**福島県の子供たちを対象とする自然体験・交流活動支援事業**」を平成26年度から実施。

(平成25年12月13日)  
 被災者に対する健康・生活支援に関する施策パッケージ

### 福島県からの要望

#### 4. (2) 子どもたちの体験活動・交流活動に対する財源確保

子どもたちの豊かな人間性や力強く生き抜く力を育むため、県内外における**体験活動**や、郷土のよさを県内外に発信する**交流活動の推進のための財源を確保すること。**

(平成26年6月11日)  
 「復興加速に向けた提案・要望」

# 読書コミュニティ拠点形成支援

(前年度予算額 : 29,828千円)  
27年度概算要求額 : 29,828千円

## 子供の読書活動

「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」(子どもの読書活動の推進に関する法律第2条)

【背景】 子供の読書活動を推進するため、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、第三次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が平成25年5月17日閣議決定(今後おおむね5年間(平成25年度～平成29年度)にわたる施策の基本方針と具体的な方策)

○ 基本の方針 —第三次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(抜粋)

- (1)家庭、地域、学校をはじめとして、社会全体で子どもの自主的な読書活動の推進を図るような取組を推進するとともに、必要な体制の整備に努める
- (2)家庭、地域、学校において子供が読書に親しむ機会の提供に努めるとともに、施設、設備その他の諸条件の整備、充実に努める
- (3)子供の自主的な読書活動を推進する社会的機運の醸成を図るため、読書活動の意義や重要性について広く普及啓発を図るよう努める

【現状】 子供の読書量: 1か月の不読率 小学生5.3%、中学生16.9%、高校生45.0% ※H25年度データ

地域間の格差: 市町村における子ども読書活動推進計画の策定率 市79.8%、町村50.5% ※H25年度データ

公立図書館の設置率 市(区)立98.3%、町立60.1%、村立25.0% ※H23年度データ

【目標】 不読率の改善: 今後10年間で不読率を半減させることを目標に、おおむね5年後(H29)に、小学生3%以下、中学生12%以下、高校生40%以下を目指す  
市町村推進計画: 市にあっては100%、町村にあっては70%以上の地方公共団体において市町村推進計画の策定を目指す

## 【事業】

### ○ 子供の読書活動推進ネットワークフォーラムの開催

学校、図書館、読書ボランティア団体等による読書コミュニティの構築を促進するため、「子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム」を全国各地で開催し、それぞれの取組の紹介や子ども読書活動推進計画をはじめ、子供の読書活動を推進する諸施策や財政措置等に関する情報提供等を行う。

(フォーラムのプログラム例)

- ・「子ども読書活動推進計画」や「学校図書館図書整備5か年計画」等による学校図書館の整備充実方策に関する情報提供
- ・学校、公立図書館、読書ボランティア団体等による取組事例発表やトークセッション
- ・読書ボランティア団体による読み聞かせ、ブックトーク、書評合戦(ビブリオバトル)の実演
- ・子供の本の展示

○ ホームページによる情報提供

○ 事業企画委員会の開催



子供読書活動推進計画における読書活動の環境

### 家庭

- ・絵本などの読み聞かせ
- ・子供との読書

### 学校

- ・国語等を通じた読書活動
- ・朝の一斉読書
- ・学校図書館による支援

### 公共図書館

- ・豊富な図書からの自由な選択
- ・レファレンスサービス

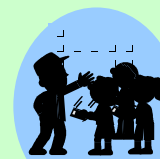
子供が積極的に読書活動を行う意欲を高め、生涯にわたる読書習慣を身につける

子供の読書活動を支援

### 地域の読書ボランティア団体



読み聞かせ



ブックトーク



環境整備支援

子供の読書活動に係る環境整備を促進

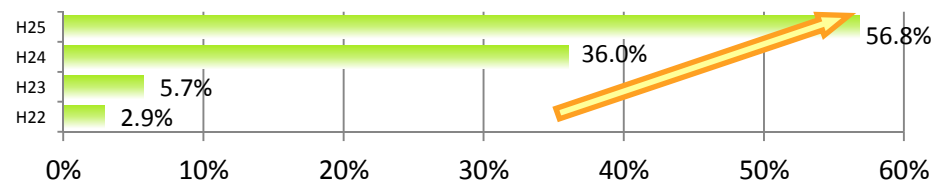
# 青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業

(前年度予算額：6,696千円)  
27年度概算要求額：12,397千円

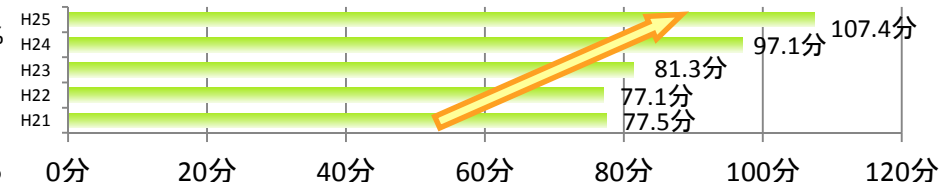
青少年を取り巻く現状

○スマートフォン等の急速な普及に伴い、高い利便性が得られる一方で、**長時間利用による生活習慣の乱れ**が課題になっている。

(1) 青少年のスマートフォン所持率が増加



(2) 青少年が1日に携帯電話・スマートフォンを通じてインターネットを利用する時間が増加



インターネット依存への対策が必要

「平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査」(内閣府)より作成

事業の概要

青少年教育施設を活用し、インターネット依存の解消に向け、規則正しい生活習慣への改善を目的とした機会を提供

○インターネットから離れ、規則正しい生活や集団生活などのプログラムを実施(1週間程度)

＜プログラム例＞

- ・参加者同士でネットの利用方法を考えるワークショップ
- ・保護者同士での情報交換の場の提供
- ・立地条件を活かした体験活動
- ・コミュニケーション能力を高めるプログラム
- ・生活リズムを整える施設での集団宿泊活動

○医療機関や学校等と連携し、プログラム後もフォローアップを行うとともに、効果を検証

○参加者の生活習慣等を分析し、ネット依存に陥りやすい傾向の有無等を調査

○平成26年度からの3年間で、**全国7ブロック**で事業を実施し、そのノウハウを全国的に普及

＜今後3年間のイメージ＞

基本的なプログラムの研究・課題の整理

平成26年度(1団体)

課題や地域に応じたプログラムのブラッシュアップとノウハウの普及

平成27年度(3団体)

平成28年度(3団体)

成果

○地方公共団体等が所有する青少年教育施設で実施できるネット依存対策プログラムの開発・普及

○ネット依存になるきっかけなどを把握し、予防のための対策にも活用(普及啓発)